






小中一貫教育だより

「つなぐ」

～中学校区の実態に応じた取組を求めて～

-  目標をつなぐ
 -  カリキュラムをつなぐ
 -  こどもの心をつなぐ
 -  教職員の意識をつなぐ
 -  家庭・地域の絆をつなぐ
- 「小中一貫教育！」



令和4年度（2022年度）
No.1 ～ No.12
担当：熊本市教育委員会事務局
学校教育部指導課

各中学校区の取組をつなぐ

小中一貫教育及び幼小中連携教育を推進・充実していくため、今年度から小中一貫教育だよりを発行します。それぞれの小中一貫教育の取組を参考にしながら、幼小中連携教育の中にも取り入れられるところは取り入れていただけるように、実践例をお伝えしていきます。

小中一貫教育では、義務教育9年間を見通して、系統的・継続的な学習指導及び生徒指導を行うことで、学力向上と児童生徒指導の充実を図ることをねらいとしています。

小中一貫教育だよりのタイトルを「つなぐ」にしました。上の5つのつながりを意識した取組を継続して行うことで、各中学校区の課題を解決していくという小中一貫教育の本来の目的を達成できるという思いを込めています。

モデル校の実践が始まりました！

小中一貫教育研究モデル校では、それぞれの中学校区ごとに小中校長会が開催され、今年度の小中一貫教育推進についての方針が話し合われました。

そして、6月10日（金）の幼小中連携の日の内容を（一貫教育目標の確認、一貫カリキュラムの作成等）を確認し、それまでの事前準備等の打合せを行いました。

- 城南中校区校長会……………4月26日（火）
- 鹿南中校区校長会……………4月26日（火）
- 五霊中校区校長会……………4月26日（火）
- 下益城城南中校区校長会…4月28日（木）

～R4つなぐNo.1より

これまでの実践を生かしながら、学校・生徒・地域の実態に応じて、**系統性・連続性を重視した小中一貫カリキュラム**を作成します。

モデル校の「小中一貫教育目標」と「小中一貫カリキュラムの柱」です！

五霊中 植木小 山本小 山東小

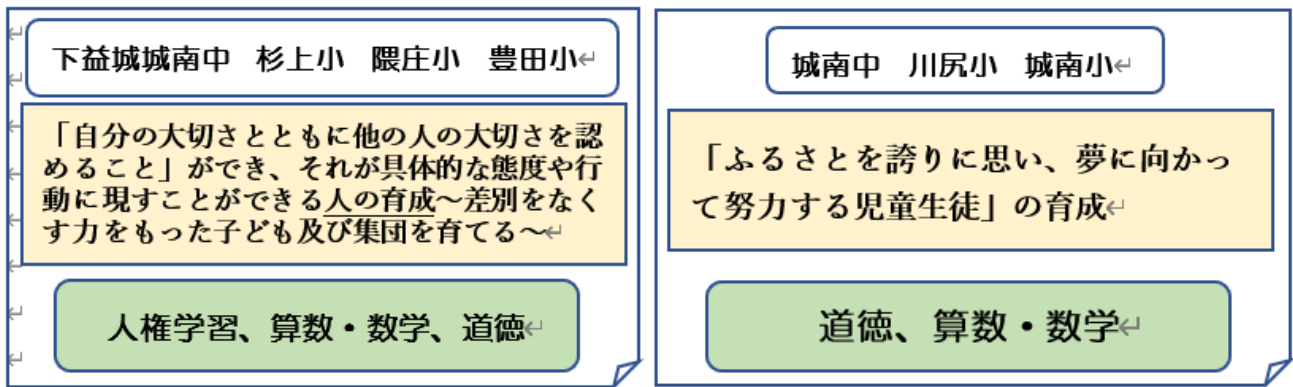
自ら気づき・考え・行動し、仲間と共に未来を拓く児童生徒の育成

道徳、算数・数学

鹿南中 桜井小 田原小 菱形小

認め合い支え合いながら、共に学び、夢を実現しようとする力の育成

外国語活動・外国語、人権学習、総合、生徒指導



～R4つなぐ No.2 より

モデル校の「小中一貫カリキュラム」が完成しました！

- 中学校で子どもたちが困っている単元などを聞くことができ、小学校からの学習が繋がっていると感じた。9年間の見通しをもって計画を立てることができるため、いいと思った。
- 小中間の課題を認識し、それに向かってどのように対応していくかを考えることで、小学校の役割を改めて認識することができました。中学校との連携をより意識した取り組みを心がけていこうと思いました。
- 小学校の先生方と情報を共有できて大変ありがたかった。小学生のつまづくポイントなども把握でき授業に生かして行かなければならないと思った。重点項目をしっかりと把握し、今後の授業に生かしていきたいと思う。

「五霊中校区、算数・数学部会にて小中一貫カリキュラムを作成された先生方のアンケートより」

～R4つなぐ No.3 より

昨年度のモデル校、**植木北中学校区**では、
来年度の**小中一貫校移行**へ向けて動き出しています！

各学校の学校だよりやHP等で、保護者や地域に発信されました！

■小中一貫教育について(お知らせ)■

現在、熊本市では小中一貫教育が推進されており、現在いくつかの中学校区がすでに「小中一貫校」としてのスタートを切っています。植木北中学校区の3校(植木北中学校・吉松小学校・田底小学校)も、昨年度「小中一貫教育モデル校」の指定を受け、3校で研究を進め、「(保)小中一貫教育目標」と「小中一貫カリキュラム」を作成しました。今年度の準備期間を経たのち、

来年度(令和5年度)より「小中一貫校(小中一貫型小学校・中学校)」となる予定です。ただ、「小中一貫校」と言っても、下記の(1)～(2)のような「小中一貫校の分類」と(3)～(5)の「施設形態の分類」があり、それぞれに特徴があります。

(略)。。。

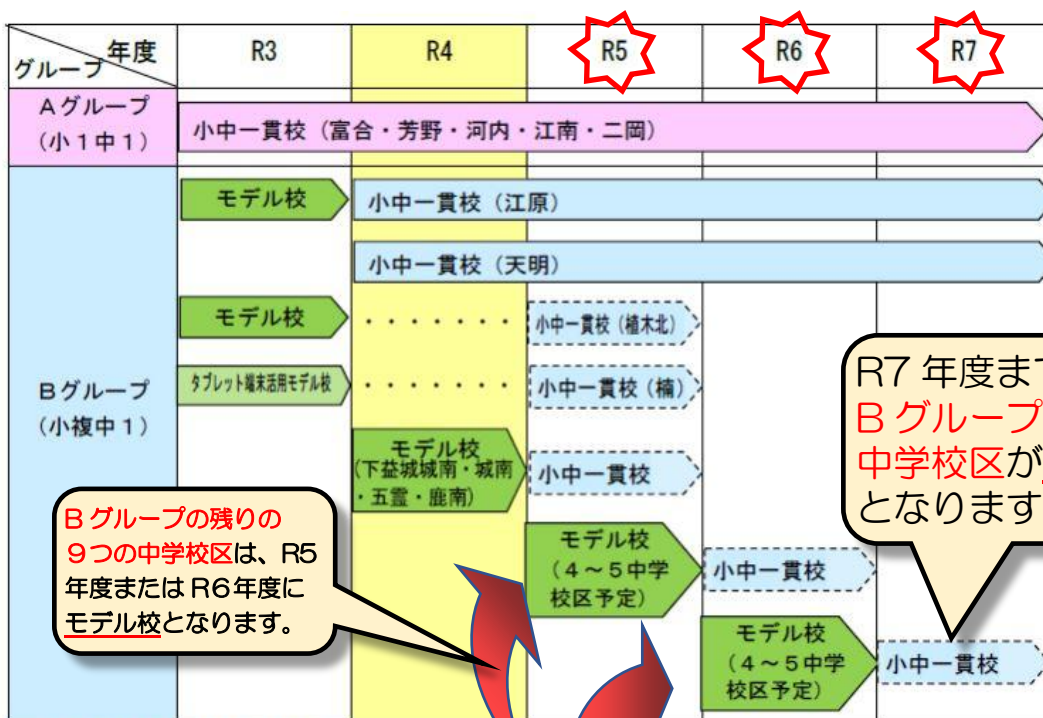
詳しくは植木北中、田底小のホームページをご覧ください。

植木北中学校区の3校は、上記の(1)小中一貫型小学校・中学校となり、(5)施設分離型となる予定です。施設の統廃合はありません。それを受け、**6月10日(金)には3校の先生方が本校に集まり、小中一貫校移行に向けた取組について具体的な話し合いを行いました。****8月下旬には、中学校主催で著名な先生をお招きして講演会を実施する予定です。**取組の第1弾としてこの講演会を「**小中一貫の行事**」と位置づけ、**植木北中学校の先生方、保護者の方々をはじめ、吉松・田底両小学校の先生方、保護者の方々にもご案内をさせていただこうと計画を進めております。**詳細については後日あらためてお知らせいたします。

～R4つなぐ No.4 より

熊本市の小中一貫校はどのように広がっていくのか!?

- Aグループは、すべての中学校区が、すでに小中一貫校となっています。
- Bグループも順次、モデル校となり、江原中学校区、天明中学校区は小中一貫校です。
- 昨年度モデル校の植木北中学校区、楠中学校区、今年度モデル校の下益城城南中学校区、城南中学校区、五霊中学校区、鹿南中学校区は、R5年度より小中一貫校となる予定です。
- Bグループの残りの9つの中学校区（下記参照）も、R5年度またはR6年度にはモデル校となり、R7年度にはBグループのすべての中学校区が小中一貫校となる予定です。



Bグループの残りの9つの中学校区は、R5年度またはR6年度にモデル校となります。

R7年度までには、Bグループの全ての中学校区が小中一貫校となります。

※ 校区は中学校区で記載

小中一貫校の導入スケジュール(第1回校長・園長会資料より)

- 西区～花陵中学校区、三和中学校区、城西中学校区 北区～武蔵中学校区、龍田中学校区
 南区～飽田中学校区、力合中学校区、日吉中学校区 東区～長嶺中学校区

合同研修会が各中学校区で開催されました。

モデル校の五霊中学校区合同研修会

8月1日（月）、植木小学校で行われた校内研修に、同じ中学校区の山本小、山東小の先生方もオンラインで参加されました。

講師に熊本大学の先生をお招きして、

- ① 確かな「思考・判断」を育てる授業
 - ② どの子ども自分の考えをもつための単元構成
 - ③ 学ぶ力を高める手だてー見通しと振り返りを中心にー
- という内容で講話をいただきました。

同じ中学校区の小学校の先生方が、共通の認識で国語の授業改善に向かう姿勢を確認することができました。

小中一貫校の富合中学校区合同研修会

8月19日（金）、富合小学校と富合中学校の先生方が、小中一貫カリキュラムの柱である「総合的な学習の時間」についての合同研修会を実施されました。研究テーマ「ふるさと富合の人・もの・ことを知り、『富合が好き』と語り、誇れる児童生徒の育成」のもと、小中一貫校として取り組まれています。

講師の先生をお招きして合同研修会を行われました。

1学期に実践された内容を各学年から発表され、その内容をもとに、講師の先生にご助言をいただきました。「富合が好き」と思える児童生徒を育成できるよう、学習計画・内容について2学期に向け再度検討し、実践していかれます。小中学校が共通理解・共通実践を進められ、互いに方向性を再確認された研修となりました。

昨年度モデル校の植木北中学校区合同研修会

8月26日（金）、植木公民館で開催された合同研修会に、植木北中、吉松小、田底小の先生方や保護者の方々が参加されました。

講師の先生をお招きして、

「多様性を認め合う児童生徒の育成～LGBTsの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み～」

という内容で講話をいただきました。小中一貫カリキュラムの1つの柱である「人権学習」に視点をのいた研修でした。その後、小中の先生方がグループになり意見交換が行われました。来年度の小中一貫校への移行に向けて、さらに小中の先生方の共通の認識が深まった研修会となりました。

具体的な目標で小中一貫教育が実践されています。

モデル校の下益城城南中学校区は「けいさん名人」で

小中一貫カリキュラム（算数・数学）の具体的な数値目標が「けいさん名人」のレベルで設定されています。

これは、たしざんの例ですが、ひきざん、かけざん、わりざんも具体的な目標レベルが設定されています。

杉上小学校 ・ 隈庄小学校 ・ 豊田小学校				下益城城南中学校	
たしざん				中学校入学時の姿	
レベル	内容	取り組む学年	目指すレベル		
1	1けたのたしざん（くりあがりなし）	全学年	A	たす	レベル1～4でA
2	10になるかず	全学年	A	ひく	レベル1～4でA
3	1けたのたしざん（くりあがりあり）	全学年	A	かける	九九1～9の段をランダム、穴あきでA
4	2けたのたしざん（くりあがりなし）	3年生以上	A		
5	2けたのたしざん（くりあがりあり）	4年生以上	B		
6	ランダムたしざん	4年生以上	B	わる	レベル1～2でA

タブレット端末活用モデル校の楠中学校区は「文字入力数」で

小中一貫カリキュラム（情報教育）の具体的な数値目標が「文字入力数」で設定されています。

楠小学校 ・ 楡木小学校						楠 中 学 校		
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
ひらがな入力			ローマ字入力					
10字/分	20字/分	20字/分	30字/分	40字/分	50字/分	80字/分	90字/分	100字/分

～R4つなくNo.8より

植木地区（鹿南中学校区、五霊中学校区、植木北中学校区）は、
来年度、同時に小中一貫校となります。

～ 小中一貫校に向けて、様々な実践がおこなわれています。～

植木地区音楽・学習交流会～植木文化ホールにて開催～

11月18日（金）、植木地区の小学校（植木小、山本小、田原小、菱形小、桜井小、山東小、吉松小、田底小）の代表学年から253名が植木文化ホールに集まり、音楽・学習交流会が開催されました。プログラムの最後は、山本小の和太鼓「城ノ越太鼓」が披露され、迫力ある演奏の中で、代表の児童が「みなさんの学校には伝統はありますか？ 太鼓を聞きながらみなさんの学校の伝統を考えてください。」との言葉がありました。参加した児童は交流によって、自分たちの学習成果の発表とともに、自分たちを振り返る機会となりました。

このこどもたちが、いずれ、鹿南中、五霊中、植木北中で共に学ぶこととなります。

授業参観で小中の交流 ～桜井小へ鹿南中の先生方が参観～

11月16日（水）～18日（金）、鹿南中の先生方が、都合のつく時間に、桜井小へ授業参観に行かれました。以下は中学校の先生方の気づき・感想です。「こどもたちへの指示が丁寧で、中学校とは違った声掛けがあり、勉強になりました。」「ICTの活用も工夫されており、中学校に入ってきてから、スムーズに使っていいのではないかと思います。」「休み時間には気さくに話しかけてくれる児童もいて、中学校でもきっと頑張れる子たちだなという印象でした。」

植木小、山本小、山東小の合同「“しごと学び” WEB ライブ」

11月17日(木)、植木小、山本小、山東小、黒髪小の6年生による合同での「“しごと学び” WEB ライブ」が行われました。今回の内容は「サプライチェーン：半導体をつくる仕事のつながり」でした。質問タイムでは、チャットで他校の意見を参考にしながら、自分たちの質問を考える場面が見られました。今回の学習が、来年度は五霊中でのキャリア教育に生かされます。

桜井小と田原小・菱形小の合同外国語の授業

11月16日(水)に桜井小と菱形小、18日(金)に桜井小と田原小がオンラインによる合同外国語の授業が行われました。6年生は学校や校区の場所や施設、お店の紹介、似顔絵を見せながら友達や先生の紹介、学校や地域の行事・お祭りの紹介を、5年生は先生の紹介をしました。

交流とともに、同じ学習に取り組んだこどもたち、鹿南中での英語の授業につながります。

植木北中学校「子ども人権フォーラム」へ吉松小・田底小も参加

11月17日(木)、植木北中と吉松小・田底小の6年生をオンラインでつなぎ、「子ども人権フォーラム」が行われました。保護者代表と生徒会長、各小学校代表と各教室をつなぎ、情報端末の使い方を中心に意見交換しました。植木北中学校区は、人権学習を一貫カリキュラムの柱の一つにしています。今回のフォーラムは来年度の小中一貫校につながる取組となりました。

～R4つなぐ No.9 より

幼保小中の連携も進められています。

来年度、小中一貫校となる楠中学校区で、 「楠幼稚園の保育参観」が行われました。

10月31日(月)～11月4日(金)、来年度、小中一貫校となる楠中学校区(楠小、楡木小、楠中)では、楠幼稚園の保育参観が行われました。3歳児のひよこ組、4歳児のうさぎ組、5歳児のいるか組の登園の様子や「自ら取り組む遊び」、「クラス活動」の様子を、小学校や中学校の先生方が参観されました。参観された先生方にとって、新たな気づきとともに、自らの指導を振り返るよい機会となりました。

～ 参観された先生方の感想 ～

- ・ 環境を整え、自主性を育てることの大切さを再認識し、日頃の指導を振り返る機会となりました。自分で何かを選択したり、アイデアを生み出したりする時間を設定しながら、今後の教育活動を進めていきたいと思いました。
- ・ 一人一人の思いや自主性を尊重された教育を見習いたいと思いました。
- ・ こどもたちの思いを大切にされた場づくりやこどもたち自身が主体的に動くことができるよう先生方が関わっていらっしゃる姿は、小学校でも大切にしていきたいと感じました。
- ・ 先生方が、こどもたちの個性や興味に合わせて保育をされていたのがとても心に残りました。学校だと、時間内に済ませないといけなことが多く、つい「早くしましょ」と言ってしまうのですが、先生方の関わりを見て、日頃の自分の関わり方を見直そうと思いました。
- ・ このように寄り添う姿を、小学校にもつなげていきたいと思いました。
- ・ 本日の参観を参考にして、小学校でも発達に応じて系統立てた指導を行っていききたいです。

今後、2月には、園児たちが中学校に行って、中学校のお兄さん、お姉さんたちと一緒に、じゃがいも植えの交流活動が行われるそうです。幼小中連携が計画的に進められています。

～R4つなぐ No.10 より

小中の子どもたちをつなぐ取組(異学年交流)が行われています。

長嶺中学校区(長嶺中2年生、長嶺小・託麻南小6年生)

「児童生徒交流事業」

3月7日(火)、3月14日(火)、長嶺中2年生の代表の生徒たちが、それぞれ出身校の長嶺小、託麻南小学校を訪問し、6年生の「総合的な学習の時間」の授業を行いました。6年生の各クラスに、3名の中学生たちが、6分間程度のローテーションで回りながら、コミュニケーションスキルトレーニング(レクリエーション的なエクササイズ)を実施しました。なごやかな雰囲気の中で楽しい交流が行われるとともに、中学生たちからは「安心して入学してください!」「長嶺中学校は成長できる学校です。困ったことがあったら先輩たちに遠慮なく聞いてください!」「やるべきことは全力で取り組む!」「中学校は、小学校の半分(3年間)しかないので、充実した生活をしてください!」など、先輩としてのメッセージが送られていました。

下益城城南中学校区(下益城城南中学生徒会、杉上小・隈庄小・豊田小6年生)

「小中連携中学校説明交流会」

3月8日(水)、下益城城南中学生徒会の生徒たちが、オンラインで杉上小、隈庄小・豊田小の6年生の児童に向けて、中学校の説明会を行いました。最初、動画による中学校生活(登校の様子、中学校の授業、校舎内の様子、委員会活動、登下校の仕方、危険箇所、部活動)が紹介され、〇×クイズ(中学校生活に関する問題)や質問タイムで交流が行われました。最後に児童から「私は今まで中学校のことを全く知らなかったけど、今日の説明で中学校のことを知ることができました。やったことのない部活にも面白そうなのがあったから入ってみたいと思いました。(隈庄小)」「中学生になることを考えると、色々な不安がありました。先輩方の話を聞いて元気が出ました。中学校では、先輩方のような立派な中学生になりたいです。(杉上小)」

「私は中学校に入ったら図書委員会に入ろうと思うのですが、図書室が広くてきれいだったのでとても楽しみです。今は算数があまり得意ではないので、中学校に入ったら数学を頑張りたいです。(豊田小)」とお礼の言葉がありました。

これらの取組により、小学6年生にとっては、中学生活への不安が軽減されるだけでなく、中学生にとっても、思いやりの心やリーダーシップの育成につながっていくものと考えられます。

R4年度モデル校の報告書が提出されました！

研究モデル校報告書「指定を受けた成果」より一部抜粋

城南中学校区(川尻小・城南小・城南中)

- 「算数・数学」と「道徳」の小中一貫カリキュラムマネジメント表を作成することで、縦（小中の関連、他学年との関連）と横（指導内容の関連）の系統性がはっきりし、次の学年につなげるために必要なことを意識した授業改善に取り組むことができた。
- 道徳を「生命の尊さ」で揃えたことがよかった。道徳と他の教育活動との関連付けができた。体験したことを道徳で深めていくことを意識しながら今後の教育活動を行っていく共通理解ができた。
- 年間2回の数学・道徳の意識調査を行い、小学校と連携してアンケートをすすめることができた。児童生徒の実態に基づいた計画的な授業実践に結び付いた。特に中学2年生においては、市の学力検査において数学の偏差値が1.2上昇した。
- 7月に行った川尻小での授業参観では、小中一貫カリキュラムマネジメント表に沿った「道徳」の授業を全学級で公開し、城南中校区で「生命の尊さ」を重点項目として取り組んでいることを保護者に啓発することができた。
- 城南小で公開授業を行ったことで中学校の先生方から小学校の丁寧な取り組みを評価していただくことができた。
- 小中一貫教育の研究モデル校として取り組む中で、これまでは中学校3年間で対応を考えていた基礎学力向上や家庭学習の充実などの課題に対して、小学校からの9年間を活用しながら連携できるため、大きな心理的余裕が生まれた。

下益城城南中学校区(杉上小・隈庄小・豊田小・下益城城南中)

- 校区の小中学校の共通課題を共有したことで、連携の柱と一貫カリキュラムに全職員が課題意識をもって取り組み、従来の教師主導の教育から児童主体の教育へ転換する重要性が認識された。
- 人権教育の共通教材の実践により、こどもたちが低学年からの学びを振り返りながら学習を進め、正しい知識を持つことで差別を無くしていこうとする態度が育まれてきた。8月は町の合同研修会で学年ごとに実践報告会、11月は、杉上小で人権学習の公開授業を行った。各学校の取組を聞き合う時間がもつことができた。
- 算数・数学においては、タブレットのアプリにある「けいさん名人」に小中全員、学年に応じた範囲を決め取り組んだ。学校でも、家庭でも、積極的に取り組む姿が見られた。
- 家庭での学習習慣の確立のため「家庭学習の手引き」を作成し、幼稚園・小学校・中学校全家庭に配布した。手引きを基にし、学年に応じた家庭学習に取り組んでいる。提出されたノートから、主体的に家庭学習に取り組んだことがうかがえる児童も見られた。
- 次年度からの小中一貫校として、何に取り組めばよいかが見えてきた。また取組の柱が絞られたことで、教師が指導の工夫をしようとする動きが増えたこともあり、生徒の学習活動が活発化してきた。小中の職員が直接話し合う場が増え、幼小中の距離が縮まってきた。
- 全体を通して、下益城城南中学校区全体で取組、方向性を確認し、実践したことはよかった。

鹿南中学校区(田原小・菱形小・桜井小・鹿南中)

- 「9年間を通した教育目標」を設定したことで、ゴールを踏まえ、先を見据えた教育を意識することができるようになった。
- 小中一貫カリキュラムを作成したことで、学年間や小中の系統が明確になった。明確になったことで、職員も系統を意識しながら日頃の授業や指導にあたることができた。
- 外国語については、共通の掲示物を作成したり、中学生からの英語でのメッセージを掲示したりと、児童が小中のつながりを意識できるような工夫がされていた。また、zoomを使って同じ中学校区の他校児童と交流する機会を設けたことで、中学校でともに過ごすことになる児童同士のつながりをつくることができた。
- 6年生でのハンセン病の学習では、授業の内容を統一し、各小学校で同じ学習を行った状態で中学校に進学することができた。
- 総合的な学習においては、小学校6年時の学習と中学校1年時の学習をうまくつなげるための計画づくりを行うことができた。
- 鹿南中学校の「学習の心得5カ条」を基に、各小学校で、それに準じた「学習のおやくそく」を作成することができた。また、6年生には、3学期に鹿南中の心得を実践に実践し、中学入学後のギャップを少しでも軽減させることができた。
- 校区の一番の課題は「学力の向上」であることを再確認し、来年度からドリルパークの時間を朝自習時に位置付けて、小中全校で取り組んでいくことを確認することができた。

五霊中学校区(植木小、山本小、山東小、五霊中)

- 算数・数学の小中一貫カリキュラムを作成したことで、系統性を意識できるようになった。また、学力検査や日常の指導から考えた重点単元を決めて、各学校が中学三年生までの発達を意識して授業実践を行うことができた。教職員アンケートより「中学校で子どもたちが困っている単元などを聞くことができ、小学校からの学習がつながっていると感じた。」「小中間の課題を認識し、それに向かってどのように対応していくかを考えることで、小学校の役割を改めて認識することができました。」
- 道徳の小中一貫カリキュラムを作成し、重点項目を「親切・思いやり」「善悪の判断、自立、自由と責任」「勤労・公共の精神」と決めて実践することを通して、教師も児童も意識を高めることができた。4校が「親子道徳の日」の共通実践を行い、家庭と連携した道徳教育について、取り組むことができた。
- 特別支援教育に関して、これまでの小中連携では児童生徒や実践の情報交換のみで終わることが多かったが、今年は「共通実践」という視点を持って取り組んだ。特に自立活動の分野において、9年間で系統性のある内容にするために、実践の実態を共有した。今後、教材の共有や共通実践を行っていく方向で調整している。また、個別の教育指導計画と教育支援計画について、現在各校独自の形式で作成しているので、必要な共通項目を入れていく予定である。
- 4校共通の学習ルール「学習三訓」を作成し、1年間通して実践した。
- 養護部会では、メディアコントロールデーの取組を共通実践した。
- 図書部会では、本の紹介などを学校間で行い、4校が連携して実践した。

熊本市では、Aグループ(小1中1)、Bグループ(小複中1)の全ての小中学校が、モデル校を経て、R7年度には小中一貫校へと移行していく予定です。今年度のモデル校の実践を参考にされ、各中学校区の実態に応じて、特色ある小中一貫教育を進められてください。